

- 1 大黒柱に使う杉。樹齢200年を超える大物。
- 2 杉の壁の間から差し込む光は木漏れ日のように柔らかくなる。
- 3 大建オリジナルの桐のロッキングチェア。座布団要らずでも疲れしない。
- 4 総桐のベッドがあまりにも心地よく、説明するはずが半分寝入ってしまった大作。
- 5 総檜の風呂。森林浴の香りも癒しく、時間を忘れゆったりつかりたい。



木の知識から生まれる ”適材適所“

夢ハウスとの出会いですっかり木の魅力に惹かれてしまった大作は、父である会長の教えや独自の実験を活かし、自身の家を大建の家第二号として建て、住みながら夢ハウスの家の良さを確かめていく。そうして得た知識は、大建の家づくりに不可欠な天然木の”適材適所“という考えにつながっていた。例えば、ヒバは丈夫である他に、虫を寄せ付けない成分を発するので、土台に最適だ。大建が使用するのは樹齢1000年もの大木で、十分な乾燥も行う。防蟻用の薬物を塗る必要も無いため、薬物の気化によるシックハウス症候群への影響も無い。松は梁にいい。使用するのは250〜400年ものだ。杉は香りや板目の風合いも良く、柱に好まれ、80年〜100年ものを使用する。桐は調湿効果にすぐれ、温かく耐火性も高いので、収納や家具として優れている。大建で提案している総桐の寝室は圧巻で、快適な癒しの効果と年を重ねるごとに風合いが増していく、天然木ならではの美しさを楽しめる。

「木本来の性質を生かせれば、人体に有害な薬なんか使わなくてもいいんだよ。本当に人の体に良い住宅環境が築ける。ぜんそくを患っているお子さんがいたら、2度内覧会へ連れてくるというよ。気持ち良さそうに室内の空気を吸ってくれるんだ。ぜんそくもおさまるよ。ほれ、このヒバの木片に水かけでみれ。ふわっといい香りが出てくるべ。な。これが腐らず、虫も寄せ付けない成分を出している証だ。切っても生き続けているもんは木くらいだな」。

まるで森林の中ですごしているかのような気持ちにさせてくれる、大建の家。深呼吸が美味しく感じる毎日を想像すると、自然と目尻が下がってくる。

大建の家づくりを支える こだわりの原木買い付け

木の知識を得たら次は原木の買い付け。大建の買い付けは大作自らが原木を現金買い付けで行う。この世界は目利きの実力もさることながら、付き合いや慣習が重んじられる世界。若いものが簡単に入っていける場所ではない。大作ももちろん例外外では無く、初めは冷めた視線も浴びることになる。「何も知らねえ若いもんが何しに来たぞと思う。でも、撫でたり匂いを嗅いだり、叩いたり凝視したりして一日中いて、面白い木を見つけてくるもんだから、変わった奴が来たぞって面白がつてだな。こっちは真剣なんだけどな」そうして1回目の交渉に入ると、「面白い木の提示額は想像どおり高い。難航すると大作は、一旦その日は交渉を中断し、近くのビジネスホテルへこもる。そして一晩中その原木の原価計算を始める。山師の管理費や伐採・運賃にかかる費用から、業者の手間賃等までを

も綿密に計算し、その額に相手の利益分も考慮して翌日の再交渉時に買い付け金額を再提示する。その数字の正確性に業者は顔色を変えるのだという。「俺は原価も知らないで値引きはしない。あくまでも正当に、お互いが利益を共有できるところを見極めて提案しているだけ。さすがに相手は面喰うな、こんなヤツみたことねって。あんまり数字が合ってるんで、誰か裏で資料渡したんじゃないかねえかつざわめいてな。折衷案なんか提示してきててもこっちは折れる気もない。そうしてるうちに、社長も出てきてな。こぞとばかりに俺の家づくりへの情熱をぶちかますんだ」まるで映画のワンシーンを思い浮かべてしまうほどの駆け引きの応酬は、聞いているだけで胸が躍ってしまう。

「施工から預かった大切な建築資金は1円でも無駄にはできないからね。必死だよ。ここまで来るのには本当に苦労した。相手は歳も経験も上の猛者達だからね。でも俺も家づくりに命かけてるからな、今は黙つても最高の原木を寄せて置いてくれるんだ。お陰でいい家建てさせてもらってる」。買い付けの場所は大作以外誰も知らない。大建の社員にも教えていない徹底ぶりだが、最高の原材料を確保している大建の強みである。

次号へつづく



会長からプレゼントされた名刺入れ。ポロポロになっても大切に使用した名刺入れは、多くの大切な出会いを導いてくれた。物を大切にすることを象徴するアイテムの一つ。